記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより 73

不登校している子
時間のながれは…
どんなだろう

ほ
り
ジ イ

不登校中の気持ち

憶測ですが…

不登校の子は家庭で自由に過ごしています。それは、誰からの指示ももらえない時間でもあります。つまり、何でも自分で決めなければなりません。だけど、決められるでしょうか？各家の夕食の献立も自由です。でもそれが毎日の事だと、「何にしようか」と迷いませんか？

不登校の子も同じだと思うのです。好きな時間に起き、有るものを食べ、好きなだけゲームして、ネットで誰かとつながって、疲れたら眠る。毎日その繰り返し。

☆

考えなくて済むからかも知れません。

学校の事を考えると、頭やお腹が痛くなるから、とっくの昔に考えるのをやめた。

先生が家庭訪問来ると、学校を思い出す。つらくなるので会わない。

先生が置いていくプリントは分からない。自分で教科書を見て解くなんて、出来るわけない。

これなら出来るだろうってもらったのは漢字プリント。うんざりする。

★

先生が持って来たクラスみんなからのお手紙に、ぼくに意地悪をする子たちも「待っているよ」って書いてあった。他のみんなも、本当にぼくを待っているのだろうか。

もし学校に行っても、休んでいる間にどんな事があって、どんな話をしているか知らない。何を話していいのか、分からない。

家にいる間ぼくは、学校とはつながっていない。学校の、みんなの時計は進んでいるけれど、ぼくの時計は止まったままだ。浦島太郎が、帰って来た村に知っている人がいなくて、ツルになって飛んで行ってしまった気持ちが、今のぼくには分かる。

☆★

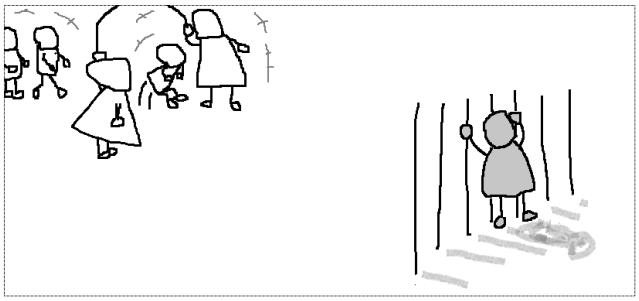
時々、ＳＳＷという人がやって来て、「困っている事があったら手伝う」と言ってくれる。学校に行けとは言わないけれど、宿題は無しにするとか、教室に入らずに通う練習をしようと言う。

結局、学校に行こうって言う事だろう。ぼくだって、行けるなら学校に行きたい。でも、行ったらみんなが何を言われるか、とても不安だ。

☆★☆

それでも学校に行ったら先生から、「大丈夫だから」と教室に連れて行かれた。そしたら声を掛けて来た子もいたけれど、みんなじゃない。ぼくをどう思っているか、向こうでぼくの話をしていないか、顔を見たらますます心配になった。

ぼくが休んでいる間に授業は進んでいて、分からなかった。ただ黙って座っていただけだった。学校を休んだぼくへの罰なのだろうか。

授業が終わったら遊びに誘ってくれた。休み時間だけは楽しかった。でもそれ以外はずっと窮屈だった。早く家に帰りたかった。

あんなのは一回でたくさんだ。